

市民生活

Q 自然気象災害における防災減災対策について

A 素早く対応できるよう準備している



市内の道路冠水

問 多発する自然気象災害から見てくる課題は。

答 7月の突風などによる急な気象変化による倒木や、8月の大雨による床上、床下浸水の発生など、災害の激甚化が課題である。

問 記録的短時間大雨などの豪雨災害における防災減災対策について。

答 最新の気象情報を踏まえ、風水害職員対応マニュアルに基づいた迅速な対応が重要である。しかし、突然のゲリラ豪雨は、災害応急活動の素早い準備が困難な場合があるため、冠水の想定地域周辺にあらかじめ土のうや通行止め看板を用意し、素早く対応できるように準備している。また、防災ハザードマップなどで過去の道路冠水による危険箇所などの注意喚起のほか、事前対策の周知を図っている。



うちの
よしひろ
内野 嘉広
議員



市民生活

Q ごみ問題解決のために

A 引き続き効果的な取組を研究していく



市内ごみ集積所

問 ごみ問題に関する相談の主な内容は。

答 自治会では対応が困難なごみ集積所の管理やルール違反のごみに関することなどである。

問 ごみ集積所の多くは民地に設置しているが、土地所有者や周辺住民の同意なくしては設置できない。設置が困難な場合の対応は。

答 民地にごみ集積所を設置できる場所が見つけられない場合には、道路上や公園内、その他市有地の中から設置場所を探している。市有地の中でも設置が難しい場合には、再度民地での検討をお願いしている。

問 生ごみ処理機の購入補助に対する考えは。

答 現時点では、生ごみ処理機の購入補助は考えていない。ごみの減量に向けて引き続き効果的な取組を研究していく。



いずも
しんたろう
出雲敏太郎
議員



市民生活

Q トイレトレーラー導入の検討を

A 導入計画はないが、トイレ環境の整備について研究していく



災害に備えた防災訓練

問 災害時にも衛生環境を保つことができるトイレトレーラーの共助制度の認識・評価は。

答 衛生面や快適性を備えた災害時のトイレ対策の一つとして有効である。導入自治体間で相互支援のネットワークを築き、水洗トイレの使用困難な地域への派遣など、衛生的なトイレ環境の確保に効果がある。

問 トイレトレーラー導入の検討を。

答 現在では、費用対効果や運用面の課題などから導入計画はないが、他自治体の動向を踏まえ災害時協定による手法も含め、より快適なトイレ環境の整備について引き続き研究していく。



こんの
ゆういち
今野 雄一
議員

